

社会への取り組み

古河スカイグループは、お客様、仕入先様、株主・投資家、地域社会、従業員など、さまざまなステークホルダーに対して負っている責任を積極的に果たし、持続的に発展していきます。

Topics



アジア最大規模のアルミニウム産業展「Aluminium China 2008」に出展

→ P.18

リチウムイオン電池用アルミニウム箔の技術解説などを掲載した技術研究論文誌「Furukawa-Sky Review 第5号」を発行



→ P.18



各工場、河川や工場周辺の清掃を実施

→ P.21

育児休業などの各種支援制度を社内WEBなどを通じて啓蒙



→ P.24

お客様との関わり

品質管理活動

全社での情報共有や新JISマーク対応など、品質管理の徹底を図っています。

当社グループでは、品質に関する当社全体の方針のもとに、研究開発、生産技術、購買、営業を含む全ての部門がそれぞれ責任を持って品質管理活動に取り組んでいます。

●クレーム情報管理システム

当社は、返品を伴うクレーム情報の「見える化」をめざし、2008年9月にクレーム情報管理システムを稼働しました。このシステムは、本社幹部、技術部品質管理グループがクレーム情報を迅速に把握・共有化し、クレーム対応状況を監視することを目的に構成されており、クレーム情報は社内LANを通じてWEBで閲覧することが可能です。本システムにより、幹部の判断・指示の迅速化を図り、クレームの早期解決、リスク管理の強化につなげていきます。



クレーム情報管理システムWEB画面

新JISマーク表示制度認証移行

新JISマーク表示制度は、これまでの工場単位、国の認証から製品単位、民間の第三者登録認証機関による認証に変更されました。当社グループはお客様が求める品質レベルを満たし、継続納入するため、2005年10月1日から3年間の移行猶予期間に順次、福井工場、深谷工場、日光工場、小山工場、古河スカイ滋賀で認証移行を完了し、2008年10月1日から新JISマーク表示を開始しています。



新JISマーク

顧客満足度向上の取り組み

品質改善の取り組みを体系化し、年度目標を定めて、顧客満足度向上に努めています。

当社グループでは2006年から顧客満足度(CS)向上を目的として、これまでの品質維持・改善の個々の取り組みを体系化し、「MCS(Maximize Customer Satisfaction)活動」として展開しており、年度目標を定めて改善に努めています。

MCS活動の体系基軸

- ①クレームの再発防止・未然防止のレベルアップ
- ②基幹となる技術力、設備力の強化
- ③お客様の要望を正しく捉えた製品・サービスの提供
- ④人材の育成

●顧客満足度調査

各工場では、ISO9001で定められた顧客満足度(CS)調査を、クレーム、コスト、納期、開発対応、迅速対応度などの観点から定期的に行っています。調査結果をもとに、お客様窓口である営業部門と協力して、顧客満足度の継続的改善を実施しています。

お客様との関わり

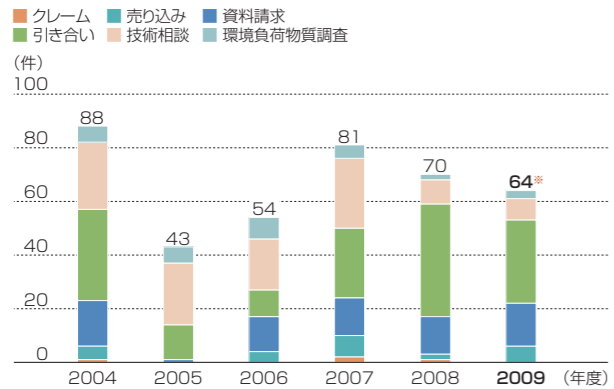
●「お問い合わせコーナー」での対応

当社では、お客様からのアルミニウム材料の引き合いのほか、使用に関する技術相談、資料請求などのお問い合わせに迅速かつ確にお応えできるよう、WEB上に「お問い合わせコーナー」を設けています。

2008年は景気後退の影響もあり、引き合いなどのお問い合わせ件数は前年より減少しましたが、2009年は件数の増加が期待されます。

なお、お客様の個人情報については、「個人情報保護方針」に沿って適切な保護に努めています。

お問い合わせ件数の推移



※ 2009年は6月までの実績

押出製品のカタログ発行

2008年12月、当社はアルミニウム合金押出製品に関する新しいカタログを発行しました。従来は製品別にカタログを発行していましたが、当カタログでは、押出材、押出型材、管棒材、引抜管棒材について、その種類や製造範囲、製品・用途例など、さまざまな情報を一覧できるようにご紹介しています。

当カタログにより、当社の押出製品の全貌をご理解いただき、押出製品の拡販を積極的に展開していきます。



アルミニウム合金押出製品のカタログ

■新商品・技術に関する情報発信

展示会やカタログなどを通じて、積極的に技術・商品情報を発信しています。

当社グループは、お客様に当社グループの技術開発力や製品の特長をご理解いただき、お客様と永続的かつ強固な信頼関係を構築していくため、展示会や製品カタログ、WEBを通じて、積極的かつ継続的な情報発信に努めています。

●展示会への出展

2008年5月28日～30日に中国・広州市で開催されたアジア最大規模のアルミニウム産業展「Aluminium China 2008」に出展し、半導体製造装置用の厚板製品や熱交換器用押出製品などの中国拡販のためのPRを行いました。



Aluminium China 2008 古河スカイ展示ブース

●技術研究論文誌「Furukawa-Sky Review」の発行

2009年4月に発行した技術研究論文誌「Furukawa-Sky Review」の第5号では、現在注目を浴びているHEVやEVなどの環境自動車に搭載される、当社関連会社である日本製箔(株)のリチウムイオン電池用のアルミニウム箔(P.37参照)の解説や当社の環境問題への対応などを掲載しました。

仕入先様との関わり

■公正な取引

購買プロセスのチェック体制を整え、調達におけるコンプライアンスを徹底しています。

当社グループは、自由競争の原理に基づいた、公正、透明、適正な調達活動を行うことを基本として、経済、社会環境の変化に対応し、適正な調達を行えるよう、仕入先様、調達品、調達方法、調達条件について最適化することを常に心掛けています。

仕入先や調達品の選定は、調達実績のある仕入先様、新しい仕入先様を問わず、競争力のある仕入先様から適正な調達ができるよう、価格、品質、納期、安定供給能力、信頼性、環境への配慮などを考慮し、合理的基準に基づいて、国内外に開かれた調達活動を行っています。

また、新しい機能や従来品の代替機能を持った商品など、新たな商品の採用にも積極的に取り組んでいます。

●調達活動におけるコンプライアンス

適正な調達活動を行うため、常に関連法規を遵守する仕組みの向上を図り、遵法の徹底に努めています。特に下請法関連事項については、社内で講習会を定期的で開催するなどして、その遵守に努めています。また、購買部門の倫理規定を設けるなど、仕入先との対応にあたる購買担当者の私的な不正行為を排除し、社会倫理を守っています。

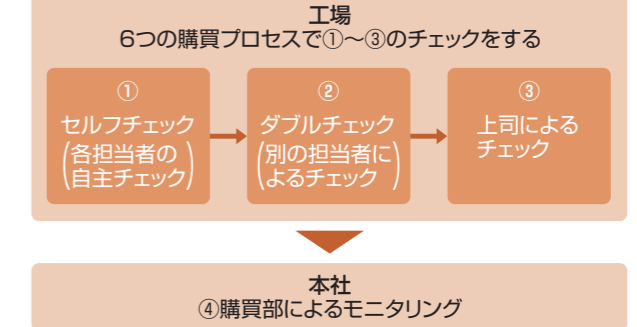
なお、調達活動で得た仕入先様の機密情報については、適切に管理・保護しています。

●購買業務のリスク管理の強化

不正な購買、購買業務のミスに関わるすべてのリスクを洗い出し、リスクに対する統制管理業務を2008年12月に標準化しました。これは、各工場の6つの購買プロセス(購入依頼、見積採取、発注、受入、検収、支払い)の各段階で担当者とは別の担当者のダブルチェックを実施し、その結果を上司、本社購買部がチェックするという、徹底的に管理する仕組みです。

この統制管理業務は内部統制推進室による運用状況のテストで適正と評価されています。

購買プロセス



事務用品のグリーン調達

当社グループは、事務用品について、エコマークなどが表示されているグリーン適合品を優先して購入しています。毎年度、対象品目の選定と目標の設定を行い、グリーン調達率*の向上に努めています。2008年度は対象品目を39品目選定し、グリーン調達率は99.9%となりました。2009年度も2008年度と同様に対象品目39品目、目標を99%に設定し、グリーン調達活動を継続的に推進します。

※ グリーン調達率：全グリーン購入対象事務用品の全購入件数に占めるグリーン適合品の購入件数の割合



株主・投資家の皆様との関わり

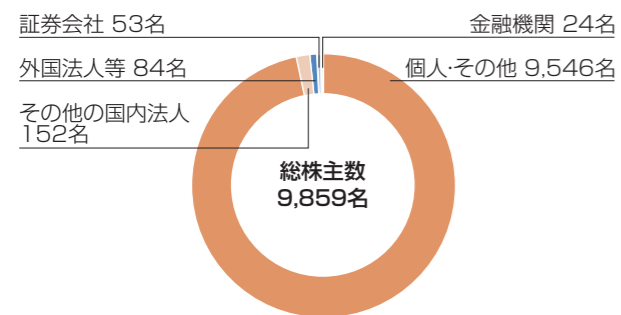
配当政策

将来の事業展開などを勘案しながら、安定的かつ継続的な配当を実施しています。

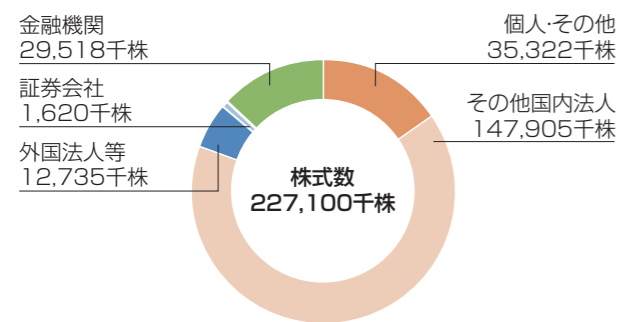
当社は、株主の皆様に対する安定的かつ継続的な配当の実施を利益還元の重要な施策と考えています。配当は業績に連動させることを基本方針としながら、将来の収益動向も踏まえつつ、企業価値の向上に向けた将来の事業展開などを総合的に判断したうえで行うこととしています。

2009年3月期は、この基本方針に沿って、1株当たり年間6円の配当(うち中間配当4円)を実施しました。

株主構成(2009年3月31日現在)



株式分布状況(2009年3月31日現在)



株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

各種報道機関への発信やWEB配信で、迅速な情報開示に努めています。

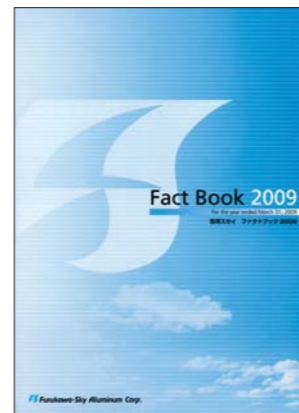
株主・投資家の皆様を対象に「Fact Book」を日本語、英語で発行しているほか、株主通信「株主の皆様へ」を年2回発行しています。

また、国内の機関投資家や証券アナリストの皆様に対しては、第2四半期決算、第4四半期決算(本決算)発表時にラージミーティングを開催し、毎年6月に定時株主総会を開催。加えて、個別取材やワン・オン・ワンミーティングへの随時対応、工場見学会の実施などにより、適時情報の開示とコミュニケーション促進に努めています。

●迅速な情報開示

当社WEB内に「IR情報」を設け、投資に関わる情報を迅速かつ正確に開示するよう努めています。

同WEBには、決算短信や決算説明会資料をはじめ、各種プレスリリースなども掲載しています。



Fact Book 2009



株主の皆様へ



IR情報サイト

地域社会との関わり

地域清掃

地域社会の一員として、各工場で、河川や工場周辺の清掃を行っています。

福井工場では、行政・県民一体で福井県下一斉に年4回行っている「クリーンアップふくい大作戦」に、継続的に参加しています。2008年も、毎回約80名の従業員が参加し、工場周辺の清掃活動を実施しました。

深谷工場では、深谷市が春と秋に実施する「ゴミゼロ運動」にあわせて、6月と10月に、工場周辺地域の清掃運動「ゴミゼロボランティア」を実施しました。

日光工場では、毎年6月の環境月間*にあわせて工場周辺の清掃・美化活動を行っており、2008年も従業員約60名が参加し、3班に分かれて実施しました。多くの生活ゴミ類をはじめ、缶・ビン類などの資源ゴミも収集しました。

小山工場では、2ヶ月に1回、約50名が参加して、工場周辺道路の清掃を行っています。清掃区域は地域住民の散歩・ジョギングコースにもなっているため、地域住民の方からも評価をいただいています。5月には地元のケーブルテレビに放映されました。

* 国連では、日本の提案を受けて6月5日を「世界環境デー」と定めています。日本では「環境基本法」(1993年)が「環境の日」を定めており、1991年度から6月の1ヶ月間を「環境月間」としています。



日光工場の清掃の様子

施設提供・開放

周辺住民の皆様にも、交流や教育の場として、施設を開放しています。

●工場見学会(小山工場)

小山工場では、9月と11月の2回、工場周辺の3自治会の住民を対象とした工場見学会を実施し、のべ約60名の方に参加いただきました。地域の自治会の方を対象とする工場見学会は全社でも初めての試みでしたが、当工場の事業内容、環境への取り組みをご理解いただくことができ、有意義な交流の機会となりました。



工場見学会の参加者

●高校への出張訪問(古河スカイ滋賀(株))

古河スカイ滋賀(株)では、近江八幡市商工会議所の工業部会会員44社からなる近江八幡工業クラブの会員として、6月、市内の工業高校へ出張訪問し、社会科学習およびエコリサイクル学習の一環でアルミのリサイクルなどの企業活動について説明しました。また、11月には近隣の高校生を対象に工場見学会を実施し、働くことの大切さや進路について考える機会としていただきました。



出張訪問の様子

●インターンシップの開催(古河カラーアルミ(株))

古河カラーアルミ(株)は、栃木県立宇都宮工業高等学校のインターンシップ推進事業に賛同し、2006年度から生徒の受け入れを行っています。2008年度は、「就業体験を通して、仕事への関心・理解を深め将来に役立てる」という趣旨のもと、11月に5日間の表面品質の検査実習などを行いました。生徒たちからは、「働くことの厳しさや大切さ、学校と社会の違いを学ぶことができた」という感想が寄せられました。

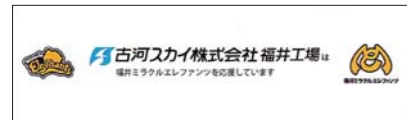
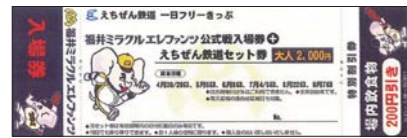
地域社会との関わり

寄付・寄贈

地域への寄付・寄贈を積極的に行っています。

●「北信越BCリーグ」のチケットへの広告掲載(福井工場)

2007年4月、「北信越BCリーグ」がスタートし、「福井県にも唯一無二のプロ野球球団を設立し、北信越BCリーグに参画したい」という県民の声に応じて2008年1月に「福井ミラクルエレファンツ」が設立されました。福井工場は、地域唯一のプロ野球チームを支えるため、チケットの裏に広告を掲載しました。



北信越BCリーグのチケットへの広告

●福祉バス購入基金の寄付(福井工場)

福井工場は、2008年3月から継続的に福祉バス購入基金を坂井市に寄付しています。同年8月、リフト付き養護学校通学バス(「あおぞら号」)を購入し、贈呈式が坂井市役所で行われました。18人乗りで、車いす3台を収容できるこのバスは、9月から養護学校などに通う児童・生徒の送迎バスとして活用されています。その後、保護者の方々が当工場を訪問され、「抱きかかえてバスに昇り降りしなくてもよくなり、とても楽になった」「福祉バスが増えて巡回コースが短くなり、通学が楽になった」などのお話をいただきました。



リフト付き養護学校通学バス「あおぞら号」

地域の環境保全活動

地域の環境保全活動にも積極的に取り組んでいます。

●「エコ・リサイクル推進事業所」認定の取得(小山工場)

小山工場は、小山市の「エコ・リサイクル推進事業所」の認定を取得しました。これは、同工場の3R(Reduce: 廃棄物の発生抑制、Reuse: 再使用、Recycle: 再資源化)や省エネルギーの推進をはじめとする環境保全活動への積極的な取り組みが評価されたものです。審査では「周辺の歩道に沿って花壇を作っただけ、地域の方々が毎日気持ちよく通勤・通学しています」との評価をいただきました。



小山市の「エコ・リサイクル推進事業所」認定ポスター

●間伐材の有効活用(深谷工場)

京都議定書の森林吸収源として認められる育成林は、健全な状態に保つ必要があります。その育成林の維持のためには間伐の実施が有効です。

深谷工場では、製品梱包に使用する木製スキッド用に木材を購入していますが、2008年度は、購入した4,000m³/年(約2,000t)のうち約半分を間伐材としました。これは間伐の実施を促進するための取り組みです。木製スキッドには北海道産のカラマツ、トドマツを100%使用しており、輸入材に比べ、輸送に必要なエネルギーも抑えられます。



間伐材

従業員との関わり

労働安全衛生の確保

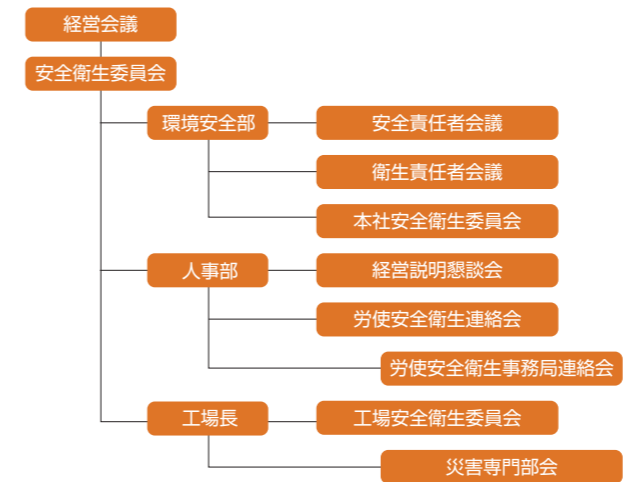
「ゼロ災害」の職場づくりと従業員の心身の健康づくりに取り組んでいます。

●安全衛生管理体制

当社は、従業員が安心して働ける労働環境づくりについて審議する「安全衛生委員会」を毎年1月と7月に開催しています。この委員会には担当役員を主催者として、全役員、工場長、関係会社社長が出席します。2008年1月の委員会では、安全成績・長期傷病の実態や健康診断結果に照らして、前年12月に全工場の安全責任者が集まる「安全責任者会議」で策定した全社安全衛生活動方針と重点実施項目の再確認を行いました。また、2008年7月の会議では、半年間の活動成果や各工場固有の問題点などを経営層が評価し、必要に応じて助言・指示を与えました。

なお、「安全責任者会議」は、月1回開催しており、他工場の目で現場の巡視や活動方針の進捗確認を行っているほか、活動課題について議論しています。

安全衛生管理体制



古河スカイ安全連絡経営連絡会

古河電工安全連絡経営連絡会

2008年 全社安全衛生活動方針

目標

休業災害 ゼロ(各工場、協力会社)
長期傷病休業件数率 新規1.0%以下

スローガン

基本を守り 全員一丸で 安全職場をつくろう!

サブスローガン

決めたルールは 徹底して 守ろう、守らせよう!

重点実施項目

- あいさつ・5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)の徹底と定着
 - 重点職場の不安全行動、不安全状態パトロールを実施
- リスクアセスメントを実施し、不安全状態、不安全行動をなくそう
 - 活きた作業標準作成によるリスク低減
 - 新規改造設備へのリスクアセスメント完全実施
 - 計画的なC規格の実施
- タテ・ヨコ・ナメのコミュニケーションで明るい職場づくり、人づくり
 - ベテランは新人・配置転換者に対し親切に教えよう
 - 全工場、グループ会社、協力会社と一体となって
- 心と体の健康づくり
 - メンタルヘルス教育の実施
 - メタボリック対策推進体制の整備

●労働災害の発生状況

2008年、当社では、始業時のミーティングで安全意識の徹底を図り、管理監督者による声かけパトロールを実施し、全社的に労働安全の徹底に努めたものの、休業災害が3件発生し、協力会社でも1件発生しました。

このため、2009年は階層別の安全教育を行うなど、職場の隅々にまで労働安全に対する意識の再徹底を図り、「ゼロ災害」の達成をめざします。

労働災害の発生状況

